

## 地域の宝を守るには再確認が大切

興玉神社防火訓練

神社の内神殿が国の指定重要文化財に指定されている興玉神社（安久町）で2月7日、防火訓練が行われました。全国の文化財防火デーに合わせて毎年実施しているもので、地元の自衛消防隊（吉田敏博隊長、10人）と消防団員30人が参加。「火事だ」という声が上がると境内に設置してある放水機を使い、消火活動を行いました。中郷地区の消防団員の平川倅一さん（梅北町）は「貴重な地域の宝を次世代に残すために必要な訓練ですね」と消火の手順を再確認していました。



## たすきでつなぐみんなの思い

南九州駅伝競走大会

えびの市から都城市間の7区間、61・25キロで競われる南九州駅伝競走大会が2月7日に行われました。64回目となる今年は、県内外の高校や大学、社会人から54チームが出場。序盤は昨年の覇者第一工業大学Aが4区まで優位に進めましたが、終盤に国分自衛隊Aが盛り返し、2年ぶり3回目の優勝を果たしました。応援に駆けつけた三枝新くん（五十市小3年）は「高校生が走っているのを見て、自分も将来、この大会で走ってみたいと思った」と将来の目標を見つけました。



## 隠れた努力や功績に光

教育委員会精励賞

ほかの生徒児童の模範となる行いや、芸術・文化、体育の分野で優秀な成績を収めた生徒、児童を表彰する教育委員会精励賞の授賞式が2月8日、中央公民館で行われました。今年は善行部門、体育部門、文化部門を合わせて44人、8団体が受賞。あいさつ運動で善行部門を受賞した仲原高矢さん（中郷中3年）が、受賞者を代表して「受賞は日ごろから指導してくれる地域の人や先生のおかげです。これからも努力を続け、なにごとも負けない力を付けたい」と力強くあいさつを行いました。



## 両監督のマイクパフォーマンスに大爆笑

茨城ゴールデングリーンズ対チームそのまんま宮崎交流戦

萩本欽一さん率いる茨城ゴールデングリーンズと東国原知事率いるチームそのまんま宮崎との野球交流戦が2月11日、都城運動公園野球場で開催されました。ドリームマッチを一目見ようと多くの観客が訪れ、好プレーが出るたびに歓声を上げたり、試合の合間に両監督がみせるマイクパフォーマンスなどを楽しんだりしました。また、交流戦に先立ち開かれた野球教室には、市内の小学生200人が参加。子どもたちは真剣な眼差しで、両チームの選手らから投球や守備などの指導を受けていました。





## われ 吾十五にして何を志す

### 立志の集い

15歳という精神的にも身体的にも大きな変化を遂げるこの時期に自分の進むべき方向や目標について考える立志式が市内の各中学校で行われました。2月12日に開かれた姫城中学校（山元博司校長、332人）の立志の集いには、2年生109人が出席。式では生徒の代表4人が「立志に寄せて」と題し将来の夢について作文を発表したほか、同校OBの鍋倉裕次郎さんが都城工業高校バレー部を日本一に導いた経験を基に講演。「夢を叶えるには努力が必要」と後輩たちに熱いエールを送りました。



## 世界に目を向けるきつかけに

### ワールド・フェスタinみやこのじょう

海外の伝統文化や遊びを知ってもらおうとワールド・フェスタinみやこのじょうが2月13日、ウエルネス交流プラザで開催されました。国際交流員や市内在住の外国人が、出身地12カ国を紹介するブースを設置。羊の骨を使ったモングルの伝統的な占いやジャマイカのボブスレーのレプリカの展示などが行われ、訪れた家族連れなどを楽しませていました。木幡聡太君（明和小1年）は「アメリカのゲームを体験しました。一度も勝つことができなかったけど面白かった」と笑顔で話していました。



## 本物のJリーグと対戦

### FC東京サッカークリニック

今年で4回目となるFC東京の都城キャンプが、2月7日から20日までの2週間にわたり行われました。14日には、市内の小中学生の24チーム、180名に対し、チームコーチ陣や23歳以下の日本代表梶山陽平選手が指導するサッカークリニックを開催。パスや体の使い方などの基礎的な練習に加え、梶山選手も参加したミニゲームが行われました。黒島太志くん（庄内小6年）は「コーチの指導がうまく楽しかった。落ち着いてプレーすることの大切さが分かった」と息を弾ませ話していました。



## 都城のPRを全国へ！

### 都城市特派大使委嘱式

キャンプで本市を訪れていたサッカーJ1FC東京の主力選手で、日本代表メンバーでもある長友都選手に2月16日、都城市特派大使を委嘱しました。特派大使は、本市の魅力を国内外に幅広く伝えてくれる人をお願いするもので、長友選手で23人目。祖父が本市出身で、佑都という名前の「都」についても本市に由来するという長友選手は、長峯市長から委嘱状を受け取り「これからも精一杯プレーして結果を残し、都城市のPRにつなげていきたい」と今後の活躍を誓いました。



# 人の風景

## 高城の文化と歴史を発信

旧後藤家商家交流資料館 館長

つるだ  
鶴田  
まさる  
勝さん



**旧**後藤家商家交流資料館を  
拠点に高城の文化と歴史

を発信しているNPO法人「高城歴史文化のまちづくりフォーラム」。その役員であり、交流資料館の館長も務めるのが鶴田勝さん（高城町、71歳）です。

同法人は、平成13年に現在の資料館北側の道路拡張に伴い旧後藤家商家の一部が解体を迫られたことから、この歴史ある建物を残さなければならぬと地

域の有志50人で設立されました。

その建物は、商家ならではの造りで、客がどこから入っても座って話せるように、式台しきだいと呼ばれる板の間が1階の全周にまわされています。また、梁はりなどに松材をふんだんに使ったり、明治時代に商売の取り引きのあった近江の国（現滋賀県）の近江八景をかたどった欄間らんまがあったりするなど、当時の商家をしのばせる造りをしています。

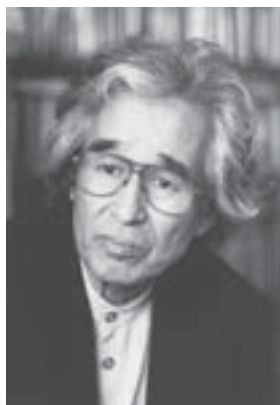
「築110年にもなる明治時代の商家づくりの建物。何とか残して、活用したかった」と当時を振り返る鶴田さん。

地域をあげた保存活動が実り、現在では、商家跡を交流資料館として活用し、そこを中心にお茶会や音楽会、5月の節句、9月の重陽の節句、なんこ大会などを通して地域に密接した文化を紹介しています。「さまざまイベントを通して、

高城の歴史や文化を知ってもらい、それをきっかけに高城の良さを知ってほしい」と話す鶴田さん。

3月28日まで開催される商家のひなまつりでは、「ひなが花見をしているシーンやなんこをしているシーンなど、一風変わった飾り方が特徴」と高城らしさをひと味加えています。商家のひなまつりに向け準備に大忙しの毎日です。

# 都城讃歌



## 【花ある処女地】

大河内 昭爾さん

わが家の近くにある立教女学院短大から福田清人についての講演を依頼されたことがある。福田清人教授は野間賞を受賞した小説家で、児童文学者として国際アンデルセン賞を受賞、明治文学の研究家としても専門家の少なかつたところに先駆的存在と目されていた。

その小説「花ある処女地」は「南国の肌」と題して映画化されたが、「労研」と呼ばれた労働科学研究所の都城地方における活動を中心に、そこでの若手研究員の青春群像を題材にした

## 大河内昭爾 (おうちしろうじ)

### プロフィール

昭和3年生まれ。文芸評論家。武蔵野大学前学長。現在は、同大学名誉教授。著書に「本の旅」「ふるさと文学館」など

ものだった。

そこには私の郷里都城のことが「高原の町」としてしゃれて描かれている。都城は高千穂の峰がそびえ立つ「建国ゆかりの土地」であり、かつては熊本第六師団に属する都城二十三連隊の所在地で、日本一強い連隊とって少年たちの誇りだった。

戦争が終った年の冬、福田清人は「労研」文化政策部主任研究員となり、都城に赴任。研究員たちは農家に住み込み実地的な生活調査をし、戦後らしい啓蒙活動も行っていった。当時、東京世田谷にあった「労研」所長は私の遠縁にあたる暉峻義等<sup>てるわかぎとう</sup>で、たまに研究員を連れて田舎のわが家によつて来る時、「労研饅頭<sup>まんじゅう</sup>」とよばれたパンを土産に持ってきた。何しろ極め付きの食料難の時代である。雑穀を集めてつくった塩味の饅頭を大事にかみしめた記憶が今でも懐かしくよみがえってくる。



# 学校へ行こう

## 「伝統と新風」

都城泉ヶ丘高校生徒会



都城泉ヶ丘高校には、全日制と定時制の2コースがあり、全日制には普通科と理数科、定時制には普通科と商業科があります。多くの生徒は大学などへの進学を目指すなど、県内屈指の進学校として有名です。特に、国内では近年減少傾向にある理数系の生徒が、理数科を中心に多く集まり、将来有望な人材が多数在籍しています。

泉ヶ丘高校では、文武両道を目標に、部活動にも積極的に取り組んでいます。運動部にも文化部にも、九州大会、全国大会へと駒を進める部活があります。部活動を通して、自己を高めて成長していく生徒が多いのも、泉ヶ丘高校の特長です。

泉ヶ丘高校は、県内有数の伝統校でもあります。昨年には、創立110周年を迎え、長い学校の歴史の中で素晴らしい伝統が培われてきたことを再確認しました。

また、来年度からは、泉ヶ丘高校附属中学校が設立され、高一貫教育という新しい時代を迎えます。伝統と新風が一つになりながら、わが校はさらなる歴史を刻んでいきます。中学生と高校生とが互いに教え合い成長することで、すばらしい伝統を受け継いでいける学校になるように、私たちはこれからも努力していきます。



◎学校のシンボル  
「質実剛健と刻まれた碑」

泉ヶ丘高校の校訓が刻まれたこの碑は、創立80周年を記念して建てられました。私たちは、伝統あるこの学校で学ぶことを誇りに思います。